

128 No. 8: 日系ビジネス交流会～香港～ 【きめ細かくニーズ対応】

(平成 30 年 8 月)

海外進出をしている企業の海外拠点について、その所在国・地域のトップは中国(56.8%)であり、その約半数が今後、既存の中国ビジネスの拡充など検討する方針だ。

また、その一番の理由は、2017 年度の日本貿易振興機構(ジェトロ)の調査によると、「中国の市場規模・成長性など販売面でのビジネスの拡大を期待しているためという。この中国進出企業のニーズに対応すべく当事務所で共催する商談会について紹介したい。



【個別ブースで商談する参加企業】

2018 年 6 月、香港に拠点を置く地方銀行全 16 行による「香港・華南地区日系企業ビジネス交流会」を開催した。今年で 10 回目となった。

交流会の特徴は、在香港の地方銀行 16 行全てで共催し、参加者が 200 名近いという大規模なイベントであるにもかかわらず、運営業者を一切入れず自前で運営することで、丁寧な対応をしていることだ。

参加行が半年程掛けて幾度にもわたり打合せし、侃侃諤諤(かんかんがくがく)と話し合いを進める。今年の交流会のあり方、個別商談会の組み合わせの調整、懇親会の食事の内容など、これまでの運営実績やお客さまからのアンケートなどを十分に参考にしながら、より効果的な商談会に仕上げていく。その時点での当地のお客さまのニーズにより近い内容にするためだ。

例えば、企業は、事前に希望した相手企業との面談(ブースでの個別商談)を行う。今回は、多くの希望に対応すべく個別商談スペースを増やしたが、それでも時間的制約もあり、すべての希望を満たすことができない。

個別商談がかなわないケースは、事前に要望を聞いたうえで、待ち時間などを活用し、面談希望相手の取引銀行と連携し合い、取引先を紹介しあうなど、ビジネスマッチング機会の極大化を図っている。

その結果、参加企業の具体的成果も見込まれ、大半が来年以降も参加したいという評価を得ている。

当事務所では、当地にある金融機関同士でも協力し合うことで、進出企業に対するサポートを充実させていきたい。

足利銀行香港駐在員事務所長 松田大輔